

小学校教員養成課程におけるピアノ実技指導に関する研究

－ピアノ演奏技術の上達を促進する運指指導の検討－

西野 晴香

要旨

本研究は、小学校教員養成課程におけるピアノ実技指導に関して、小学校教員養成課程におけるピアノ実技指導者の共通する目標と願いである、(1) 学生のピアノに対する苦手意識を取り払うこと、(2) 学生が意欲を持って練習に取り組むこと、(3) 学生のピアノ演奏技術が上達すること、以上三点を目標に、小学校教員養成課程におけるピアノ演奏技術の上達を促進する運指指導について、検討するものである。

本稿では、先行研究の分析から、小学校教員養成課程におけるピアノ実技の運指指導研究を整理し、筆者による今後の指導実践を目標に、運指指導方法の検討を試みた。まず、小学校教員養成課程におけるピアノ実技の運指指導研究がどの程度なされているかについて調査した結果、小学校教員養成課程におけるピアノ実技の運指指導研究が確認された。その中で、小学校教員養成課程におけるピアノ実技の運指指導実践例がいくつか確認された。しかしながら、筆者が指導実践を目標に検討を進める方法と同様の運指案および運指指導実践例については確認できなかった。そこで、筆者が、小学校教員養成課程における、ピアノ演奏技術の上達を促進するとして指導実践を目標に検討を進める運指指導方法に基づき、小学校歌唱共通教材全24曲の旋律部の運指案を示した。

キーワード：小学校教員養成課程、養成課程、ピアノ、運指、指導

はじめに

小学校をはじめとする教員養成課程には、全ての学生を学校現場で通用するピアノ演奏技術の水準に到達させる指導が求められているが、近年、大学入学後に初めてピアノを学習する学生が少なくなっているのが実状である¹⁾。

そのような中、筆者は、小学校教員養成課程（以下、幼稚園教諭・保育士養成を含む）に在籍する学生の指導に際し、ピアノを弾けるようになるための練習方法や、ピアノを弾く際に要する理想的な思考の仕方について、より具体的に説明することや時間をかけて見守ることを心がけている。そのようにして学生のピアノ練習状況を日々観察する中、学生に散見されるある特徴に気付いた。それは、楽譜に示されている運指記号（指の使い方や示す番号）に無頓着な点である。実はこの様子は、小学校教員養成課程に学ぶ者に限らず、例えば子どもがお稽古事の一つとしてピアノを習う場合にもよく見られる例である。しかし、小学校教員養成課程の、それも大学入学後に初めてピアノを学習し始めた学生が楽譜に示された運指記号に留意しないままピアノの練習に励んでいることは、少しでもはやく一人前にピアノを弾けるようになりたいであろう本人らの願いと、逆行しているのである。

小学校教員養成課程に在籍する学生が自身のピアノ演奏技術の上達を目指すとき、その成長の度合いに、学生個々の音楽に関するさまざまな基礎力が影響することは言うまでもない。しかし、こと運指記号への留意については、ピアノ学習経験や音楽に関する基礎力がないに関わらず、往々にして置き去りにされているように見受けられるのである。そうした運指記号への不注意は、ピアノ演奏技術の上達を日々妨げるばかりか、苦勞してようやく弾けるようになった曲の仕上がりに残念な影響を及ぼす。つまり、ピアノ学習初期段階における運指記号への留意と運指記号に則った練習姿勢は、ピアノ演奏技術の上達にとって、欠くべからざる要点であると

言える。

1. 問題の所在と目的

小学校教員養成課程におけるピアノ実技指導者の共通する目標と願いである²⁾、(1) 学生のピアノに対する苦手意識を取り払うこと、(2) 学生が意欲を持って練習に取り組むこと、(3) 学生のピアノ演奏技術が上達すること、以上三点を目標に、小学校教員養成課程におけるピアノ演奏技術の上達を促進する運指指導について、検討した。

2. 方法

先行研究の分析から、小学校教員養成課程におけるピアノ実技の運指指導研究を整理し、筆者による今後の指導実践を目標に、指導方法の開発および検討を試みた。

3. 結果および考察

1) 小学校教員養成課程におけるピアノ実技運指指導研究の動向

小学校教員養成課程におけるピアノ実技の運指指導研究がどの程度なされているかについて調査した結果、小学校教員養成課程におけるピアノ実技運指指導に関する先行研究が複数認められた。それらからは、小学校教員養成課程における、ピアノ実技初学者に見られる傾向やピアノ実技運指指導の実践報告、また小学校教員養成課程における、ピアノ実技の運指指導の重要性やピアノ実技運指指導に当たる上での指導者としての考えが見て取れた。

例えば、小学校教員養成課程における、ピアノ実技初学者に見られる傾向として、ピアノを弾くことに慣れない者は、ほとんどの場合において運指を考慮に入れることができないこと³⁾や、ピアノ実技の習熟度が浅い場合、左右の手の10本の指をうまく使い分けられず弱い指を避けた自分にとって都合のよい運指を優先

してしまうこと⁴⁾、またピアノ実技初学者には、自分で運指を考慮されるほどの経験も余裕もないこと⁵⁾、その他、自己流であり弾き難いと思われる不自然でアクロバティックな運指で弾かれることが多いこと⁶⁾等が確認された。

続いて、小学校教員養成課程におけるピアノ実技運指指導の実践報告としては、「音楽表現を優先するあまり、学習者のテクニックに不似合いな運指を選ぶ必要はない」⁷⁾とする考えから提案された歌唱共通教材の運指案、および指導実践報告⁸⁾や、「演奏を平易にする際であっても、原曲が持つ叙情的な要素や正しい和声進行などの『音楽的内容』を最低限維持してはならない」⁹⁾とした上で提案された歌唱共通教材の運指案、および指導実践報告¹⁰⁾、その他、ピアノ演奏技術上達のためにまずは正しい運指で演奏することを推奨しているとの指導実践報告¹¹⁾が確認された。また、学生に対し、各自の楽譜に自ら運指番号を書き記すことを促す指導によって、学生の演奏力向上に効果があったとの報告¹²⁾が認められ、ここにも、運指に着目した指導実践報告が確認できた。

また、小学校教員養成課程における、ピアノ実技の運指指導の重要性については次のような指摘が確認された。まず、指導者は、無理な運指で練習を進めている学生に対して、手指の運動効率が良く、かつ演奏曲のもつ音楽の流れを損なわない運指を指導することが大切であるとするもの¹³⁾、あるいは、学生が養成課程を卒業後に小学校や幼稚園において鍵盤ハーモニカ指導に当たる可能性を挙げ、運指に関する知識および経験を含んだ正しいピアノ演奏技術を身につける必要性を指摘したもの^{14) 15)}、その他、ピアノ実技初学者はどのように練習すれば自分のピアノ演奏技術が上達するのかわからない場合があるものの、運指番号に留意させることを目的とした教材を用いた指導に効果がみられたことから、ピアノ演奏技術上達のためには運指番号に留意した練習姿勢の習得が必要¹⁶⁾とする指摘が確認された。さらに、読譜の初めの段階から正確かつ適切な運指による練習を習慣づけなければ、音楽的な演奏表現の必要に迫られてある程度読譜が達成された段階になってから運指の誤りを正そうと試みることは容易ではない¹⁷⁾上に、「中級以上のレベルに到達してからそうした誤った練習の仕方の改善を図ろうとしても、それにはより大きな困難を伴う場合が多い」¹⁸⁾とする指摘も確認できた。

そして、小学校教員養成課程における、ピアノ実技運指指導に当たる上での指導者の考えについては、ピアノ演奏では運指の選択によって音楽表現が変化するため、上級者になればなるほど最適な運指を検討する力が必要となるものの、ピアノ実技初学者や中級者においては必ずしもそうではなく¹⁹⁾「音楽表現を優先するあまり、学習者のテクニックに不似合いな運指を選ぶ必要はない。また一方、弾きやすさだけでなく、音楽のニュアンスを豊かに表現することも常に考えての運指でなければならない」²⁰⁾との指摘が認められた。

以上のとおり、小学校教員養成課程におけるピアノ実技の運指指導研究が確認された。

2) 小学校教員養成課程におけるピアノ実技の運指指導実践例

(1) 演奏曲の理想の姿を目標に演奏できるよう考えられた運指案²¹⁾

村木²²⁾による小学校歌唱共通教材各曲の運指指導では、使用する楽譜に既存の運指番号に加えて村木考案の運指案の、それぞれ二

通りの運指方法が示された楽譜を見せてピアノ指導を実施したところ、学生がある曲について自分に合った運指を習得したのみならず、それ以外の曲において学生自ら類似箇所先の運指案を活用する進歩が見られた他、運指を選択することによって、各学生から生き生きと自信を持った演奏が引き出せることがわかったとしている。

以下、村木²³⁾より譜例を示す(譜例1～9)。なお、運指番号の上段は既存楽譜『教師用指導書 伴奏編』²⁴⁾にある運指番号、下段は村木による運指案とされる²⁵⁾。

譜例1 「かくれんぼ」²⁶⁾

譜例2 「かたつむり」²⁷⁾

譜例3 「とんび」²⁸⁾

譜例4 「ふじ山」²⁹⁾

譜例4での2小節目の5-1の表記は、上段のように忙しい思いをして指ぐりをすることに比べ、指を順次に使った後、二分音符の間に指替えをする案が示されたものである³⁰⁾。

譜例5 「ふるさと」³¹⁾

譜例5での()内の運指番号は、レガート奏法を意識した運指案として示されたものである³²⁾。

譜例6 「まきばの朝」³³⁾

譜例7 「春の小川」³⁴⁾

譜例8 「茶摘み」³⁵⁾ (原文ママ)

譜例9 「夕やけこやけ」³⁶⁾

(2) 演奏が平易になるよう考えられた運指案³⁷⁾

田中³⁸⁾による小学校歌唱共通教材各曲の運指指導では、初学者の場合、寄せ指や指越えなどの運指で躓くことが多い³⁹⁾ことから、それらの動きが滞ることを抑えた「1フレーズ1ポジション」⁴⁰⁾の考えに基づいた運指案によって指導を実施し、その指導効果があったとしている⁴¹⁾。

以下、田中⁴²⁾より譜例を示す(譜例10)。

譜例10 「うみ」⁴³⁾

以上のとおり、小学校教員養成課程におけるピアノ実技の運指指導実践例が確認された。しかしながら、筆者が指導実践を目標に検討を進める方法と同様の運指指導方法、および指導実践例については確認できなかった。

よって次に、今後、筆者によるピアノ実技指導実践を目標とする、小学校教員養成課程におけるピアノ演奏技術の上達を促進する運指指導案について示す。なおこれは、小学校教員養成課程におけるピアノ実技指導に関する研究のうち、ピアノ演奏技術の上達を促進する運指指導について検討する第一報である。

3) 小学校教員養成課程におけるピアノ演奏技術の上達を促進する運指案

これまで、小学校教員養成課程におけるピアノ実技の運指指導研究が複数確認された⁴⁴⁾。また、小学校教員養成課程におけるピアノ実技の運指指導実践例についても認められた⁴⁵⁾。しかしながら、筆者が指導実践を目標に検討を進める方法と同様の運指指導実践例については見当たらなかった⁴⁶⁾。

よってこれより、小学校教員養成課程における、ピアノ演奏技術の上達を促進するとして筆者が指導実践を目標に検討を進める運指指導方法について述べるとともに、その方法に基づく、小学校歌唱共通教材全24曲の運指案を示すこととする。

(1) ピアノ演奏技術の上達を促進する運指指導方法および運指案

ピアノ演奏のための楽譜には、作曲者本人や編集者によって、通常、音符等の記号と同時に、その音の出る鍵盤をどの指を用いて弾いたら良いかについて、運指記号が示される。左右の手とも、親指を1、人差し指を2、中指を3、薬指を4、小指を5として示される。

ピアノ演奏に際する運指の選択は、習得しようとする曲の演奏の出来と習得に要する時間を左右する。このことはピアノ演奏家や指導者らによって多数報告されており筆者が言うまでもないが、村木⁴⁷⁾によれば、芸術作品としての楽曲をピアノ演奏する場合には、「曲想や和声の特性を考慮した運指。つまりテンポの速い曲や細かいリズムには、運動機能優先で、また、音を保持して順次進行なら隣接する指を優先して選択というように。和声進行により、緊張と弛緩

を表現すべき部分では、荷重にふさわしい指と脱力に適した指⁴⁸⁾とする考え方が望まれ、運指をどうするかによって音楽表現が変化することから、上級者になればなるほど個々の技量に合わせて最適な運指を考える力が必要とされる⁴⁹⁾。加えて、「つまり、運指には正解がひとつではなく、個人的な指の傾向や、音楽表現の嗜好を反映させながら、推敲していくものである⁵⁰⁾。ピアノ演奏に際する運指の選択が習得しようとする曲の演奏の出来と習得に要する時間を左右することは、小学校教員養成課程に在籍する学生のピアノ演奏技術の上達に関しても、同様のことが言える。

しかし、小学校教員養成課程入学後に初めてピアノを学習し始めたピアノ実技初学者の多くは、視界に入ってくる楽譜情報のうち、ひとまず音を出そうとするあまり、運指記号には目もくれず、音の高低のみに注力してしまう⁵¹⁾。そして、そうした取り組み姿勢すなわち練習スタイルは、その後よほど改心しない限り続くことになる⁵²⁾。

したがって、ピアノ実技初学者にとって楽譜に示された運指記号にまずは従う姿勢が重要であること、つまり先述のとおり「ピアノ学習初期段階における運指記号への留意と運指記号に則った練習姿勢は、ピアノ演奏技術の上達にとって、欠くべからざる要点である⁵³⁾」と考えられるのである。

以上のことを踏まえ、小学校教員養成課程における、ピアノ演奏技術の上達を促進する運指指導方法として、次の点に配慮し、運指案を検討した。

- ①ピアノ実技初学者にとって一目でわかること。かつ活用が進むものであること。
- ②ピアノ実技経験者にとっても有用であること。
- ③将来的にこの方法によらない楽譜の演奏時にも有用であること。

(2) ピアノ演奏技術の上達を促進する運指指導方法に基づく運指案による小学校歌唱共通教材の譜例

上記三点に配慮した、小学校教員養成課程における、ピアノ演奏技術の上達を促進する運指指導方法に基づき、小学校歌唱共通教材全24曲の旋律部の運指案を譜例にて示す。

ただし、この運指案を譜例によって示すにあたり、いくつか基準を設けた。その基準について述べる。

- ①ここでは、指導実践に向けた検討段階の運指案であることから、運指案は右手の演奏部のみとし（一部旋律を担当する左手演奏部あり）、筆者による運指案の独自性がより示されるよう、オリジナル楽譜ではなく既存の楽譜を基にした。中でも広く活用されてきたと思われる、音楽之友社出版『最新 初等科音楽教育法〔改訂版〕小学校教員養成課程用⁵⁴⁾』を用いた。ただし、主旋律以外の声部を主旋律に重ねて右手で演奏することを示す部分を含む曲の場合については、主旋律のみの運指案を示した。
- ②音楽之友社出版『最新 初等科音楽教育法〔改訂版〕小学校教員養成課程用⁵⁵⁾』において「簡易伴奏」として掲載されている小学校歌唱共通教材全24曲をここに借用し、全24曲の譜例に、適宜、小節番号を付記した。また、原本にある歌詞については割愛した。

③筆者による運指案は、②の作業の上に、一旦鍵盤に置かれた5指が「指くぐり」や「指またぎ」をしない、いわゆる1ポジションの中で弾くことが可能な範囲を、帯状の太い線で示した。かつ1ポジションごとの最初の音には、従来どおり、運指を数字で（1から5のいずれか）示した。なお、ポジション内における最高音については、譜読み時の目安となることが想定されるため数字によって示した。また、ポジションによって、薬指の使用を示す4や小指の使用を示す5が最初の音に示されている場合には、最低音を数字によって示した。加えて、譜読み時の助けとなるよう、楽譜の段が改まるごとに、最初の音には数字による運指を示した。

④帯状の太い線の切れ目はすなわちポジションの持ち替え位置を示す。本来、ポジションの持ち替え位置は、歌詞の文節の区切りやブレス指定箇所（息継ぎを示す楽譜上の「v」の箇所）、またはフレーズ（音楽のまとまりを示す楽句）の切れ目と一致していることが望ましい。しかし、曲によっては、ポジションの持ち替え位置がそれらと必ずしも一致していない。これは、本運指案が「①ピアノ実技初学者にとって一目でわかること。かつ活用が進むものであること。」⁵⁶⁾に配慮している点を優先した結果である。

⑤上記④の配慮、すなわち、歌詞の文節の区切りやブレス指定箇所（息継ぎを示す楽譜上の「v」の箇所）、またはフレーズ（音楽のまとまりを示す楽句）の切れ目とポジションの持ち替え位置とが必ずしも一致していないことは、学生が実際に演奏する段階において悪影響を及ぼす可能性も考えられる。しかしながらこの点については、今後の指導実践における学生の状況を踏まえた判断が必要となると考える。

⑥1ポジションの中で弾くことが可能な範囲が次段に引き続く場合には、1ポジションを示す帯状の太い線が前段の最後の小節からはみ出す様式を採ることでそれを示した。

第1学年歌唱共通教材

譜例11 「うみ」



譜例11「うみ」においては、第6小節3拍目の運指「2」について、2拍目からの「G(ソ) - E(ミ)」の音程が3度であることから、初見時に親指「1」を使用してしまう懸念があり、そのことに対して注意を与えた。

また、第10小節1拍目の運指「4」について、前小節3拍目からの「D(レ) - H(シ)」の音程が3度であることから、初見時に中指「3」を使用してしまう懸念があり、そのことに対して注

意を与えた。

譜例12 「かたつむり」

譜例13 「日のまる」

譜例13「日のまる」においては、第10小節1拍目の運指「4」について、前小節2拍目からの「A（ラ）-C（ド）」の音程が3度であることから、初見時に小指「5」を使用してしまう懸念があり、そのことに対して注意を与えた。

また、第14・15小節の運指「4」「3」について、それら「C（ド）-A（ラ）」の音程が3度であることから、初見時に、第15小節1拍目に人差し指「2」を使用してしまう懸念があり、そのことに対して注意を与えた。

譜例14 「ひらいたひらいた」

第2学年歌唱共通教材

譜例15 「かくれんぼ」

譜例16 「春がきた」

譜例16「春がきた」においては、第5小節から第7小節2拍目までを1ポジションに設定することと、第7小節の途中でポジションの持ち替えを指定していることについて述べる。

本来、ポジションの持ち替え位置は、歌詞の文節の区切りや、プレス指定箇所（息継ぎを示す楽譜上の「v」の箇所）と一致していることが望ましいが、この部分については、ポジションの持ち替え位置がそれらと一致していない。これは「①ピアノ実技初学者にとって一目でわかること。かつ活用が進むものであること。」⁵⁷⁾を優先した結果である。

譜例17 「虫のこえ」

次頁の譜例18「夕やけこやけ」においては、第6小節の途中でポジションの持ち替えを指定しているが、これは、本稿34頁④のとおりである。

なお、本研究では、筆者による運指案の独自性がより示されるよう、オリジナル楽譜ではなく既存の楽譜を基にしているが、最後に

ら2小節間の、引用文献の示す右手運指は、2声を演奏するための運指である。よってここでは、先述の基準に沿って、主旋律についてのみ本運指案を示した。

譜例18 「タやけこやけ」

Musical score for Example 18, 'Tayakekoyake'. It consists of four staves of music in 4/4 time. The first staff shows measures 1-4 with fingerings 4, 5, 1, 1. The second staff shows measures 5-8 with fingerings 2, 4, 5, 4, 5. The third staff shows measures 9-12 with fingerings 4, 1, 3, 5, 1, 5, Fine. The fourth staff shows measures 13-16 with fingerings 4, 5, 1, 1, D.S.

第3学年歌唱共通教材

譜例19 「うさぎ」

Musical score for Example 19, 'Usagi'. It consists of three staves of music in 4/4 time. The first staff shows measures 1-4 with fingerings 6, 1, 4, 4. The second staff shows measures 5-8 with fingerings 1, 4, 1, 4, 1, 4. The third staff shows measures 9-12 with fingerings 3, 5, 2, 5, 1, 2.

譜例19「うさぎ」においては、第10小節の途中でポジションの持ち替えを指定しているが、これについて述べる。

本運指案では、第3小節「F (ファ)」の音に親指「1」が指定されてから、その後、第10小節まで同じポジションが指定されている。そのため、初見時に、第10小節の「F (ファ)」についても親指「1」を使用してしまう懸念があり、そのことに対して注意を与えたものである。

譜例20 「茶つみ」

Musical score for Example 20, 'Chazumi'. It consists of four staves of music in 4/4 time. The first staff shows measures 1-4 with fingerings 1, 2, 5, 4. The second staff shows measures 5-8 with fingerings 3, 5, 4, 1, 2. The third staff shows measures 9-12 with fingerings 1, 2, 5, 4, 4. The fourth staff shows measures 13-16 with fingerings 3, 4, 4, 5.

譜例20「茶つみ」においては、第5小節4拍目の運指「4」、第8小節1拍目の運指「4」、第13小節4拍目の運指「4」、第15小節4拍目の運指「4」について、それぞれその前の音との音程が3度であることから、初見時に中指「3」を使用してしまう懸念があり、そのことに対して注意を与えた。同様に、第1小節および第11小節の「G (ソ)」の音に対しても、それぞれその前の音との音程が4度であることから、初見時に薬指「4」を使用してしまう懸念があり、運指「2」を示すことによって注意を与えた。

さらに考えられる懸念として、第16小節4拍目「E (ミ)」の音と第17小節1拍目「D (レ)」の音にはそれぞれ親指「1」の運指があてられている点がある。

ピアノ演奏において、同音を同じ指で続けて演奏することや、音階(隣り合う鍵盤を順次打鍵する旋律)演奏の場合に親指「1」を連続して使うことは、原則的に禁則と考えられている。

しかし、この箇所においては、ちょうどブレスの指定箇所(息継ぎを示す楽譜上の「v」の箇所)に指定されているため、この運指で差し支えないことを確認した。

譜例21 「春の小川」

Musical score for Example 21, 'Haru no Koyasu'. It consists of four staves of music in 4/4 time. The first staff shows measures 1-4 with fingerings 3, 5, 4, 4. The second staff shows measures 5-8 with fingerings 1, 5, 4, 1, 2, 5. The third staff shows measures 9-12 with fingerings 3, 4, 1, 1, 4, 5. The fourth staff shows measures 13-16 with fingerings 2, 1, 5, 4, 1, 1.

譜例21「春の小川」においては、複数の箇所においてポジションの持ち替えを指定している。これは、この曲の旋律部に使用されている音域が10度にわたっており広いことからやむを得ないことと考える。しかしその中でも、初見時に、ピアノ実技初学者にも運指情報が一目でわかるよう配慮された、本稿34頁④の考えによるものである。

譜例22 「ふじ山」

Musical score for Example 22, 'Fujisan'. It consists of five staves of music in 4/4 time. The first staff shows measures 1-4 with fingerings 4, 1, 5. The second staff shows measures 5-8 with fingerings 6, 3, 5, 3. The third staff shows measures 9-12 with fingerings 2, 3, 1, 5. The fourth staff shows measures 13-16 with fingerings 5, 4, 2. The fifth staff shows measures 17-20 with fingerings 2.

譜例22「ふじ山」においては、第2小節、第5小節と第6小節の間、第7小節、第10小節、第15小節の途中でポジションの持ち替えを指定しているが、これについても、本稿34頁④のとおりである。

また、第13小節3拍目の「A(ラ)」の音に対しては、その前の音との音程が3度であることから、初見時に中指「3」を使用してしまう懸念があり、運指「4」を示すことによって注意を与えた。

第4学年歌唱共通教材

譜例23 「さくらさくら」

譜例24 「とんび」

譜例24「とんび」においては、複数の箇所においてポジションの持ち替えを指定している。これは、この曲の旋律部が、間に1音以上の音を挟む、跳躍した音程を多数含むことからやむを得ないことと考える。しかしその中でも、初見時に、ピアノ実技初学者にも運指情報が一目でわかるよう配慮された、本稿34頁④の考えによるものである。

なお、この譜例24については、第9小節から第12小節にわたる4小節間は、旋律部を左手が奏する編曲がなされている⁵⁸⁾ため、それに伴い本運指案も左手の運指「親指1、人差し指2、中指3、薬指4、小指5(右手と同様)」として示した。

譜例25「まきばの朝」においては、第3小節において次の理由から注意を与えた。

本運指案の、帯状の太い線ではなく数字による運指のみを注意深くみたととき、第2小節1拍目「G(ソ)」の音から第3小節2拍目

の「D(レ)」の音までが1ポジションで演奏可能な範囲となっていることがわかる。

しかし、この箇所の場合、前奏部である1段目のフレーズ(音楽のまとまりを示す楽句)が、前半2小節と後半2小節との2つのフレーズで構成されている。また後半2小節に関しては、「D.S.(ダル・セーニョ)」⁵⁹⁾の指定により反復時に戻ってくる箇所でもあることから、あえて第3小節からポジションが改まるかのように見える表記とした。

また、第21小節においては、フレーズ(音楽のまとまりを示す楽句)の途中でポジションの持ち替えを指定している。これは、このフレーズに使用されている音域が8度にわたって広いことからやむを得ないことと考える。しかしその中でも、初見時に、ピアノ実技初学者にも運指情報が一目でわかるよう配慮された、本稿34頁④の考えによるものである。

なお、本研究では、筆者による運指案の独自性がより示されるよう、オリジナル楽譜ではなく既存の楽譜を基にしているが、第12小節の「D(レ)」について、引用文献の示す右手運指は、1から2に持ち替えることを示している。しかしそれは、曲の冒頭からその箇所まで左手に担当させてきた伴奏部を、右手が手伝うかたちの伴奏アレンジを演奏するための運指である。そのため、主旋律の演奏に必要とされる運指を引用するとともに、筆者による運指案についても主旋律についてのみ示した。

譜例25 「まきばの朝」

次頁の譜例26「もみじ」においては、第11小節の途中と、第13小節および第14小節の間でポジションの持ち替えを指定しているが、これは、本稿34頁④のとおりである。

なお、本研究では、筆者による運指案の独自性がより示されるよう、オリジナル楽譜ではなく既存の楽譜を基にしているが、第9小節から第12小節の間の、引用文献の示す右手運指は、2声を演奏するための運指である。よってここでは、先述の基準に沿って、主旋律についてのみ本運指案を示した。

譜例26 「もみじ」

第5 学年歌唱共通教材

譜例27 「こいのぼり」

譜例27「こいのぼり」においては、第2小節の途中、第11小節の途中でポジションの持ち替えを指定しているが、これは、本稿34頁④のとおりである。

譜例28「子もり歌」の旋律Bにおいては、前奏部を除いた旋律Aの旋律ラインと同様であるにもかかわらず、異なる運指が示された小節がある。これは、曲の調性の違いによって起こるものである。説明する。

ピアノ演奏においては、ピアノを弾く際の、椅子に腰かけた胴体からより距離の遠い場所に位置する黒鍵の打鍵については、比較的長い指（親指「1」と小指「5」以外）を用いることが原則とされている。そのため、旋律Aには生じなかった黒鍵を打鍵する必要がある、旋律Bの第10小節3拍目「B（シb）」の音に、小指「5」ではなく薬指「4」の使用を促す注意を与えたものである。

譜例29「スキーの歌」については、第1小節および第5小節において、引用文献には二通り目の運指が（ ）として示されているが、引用元にある二通り分の運指について本研究で言及する必要はないと考え、ここではその掲載を省略する。

その他、第7小節の途中でポジションの持ち替えを指定していることについて述べる。

本運指案の、帯状の太い線ではなく数字による運指のみを注意深

くみたとき、第5小節3拍目の裏拍「D（レ）」の音から第7小節4拍目「Fis（ファ#）」の音までが1ポジションで演奏可能な範囲となっていることがわかる。

しかし、この箇所については、歌詞の文節の区切りについても配慮し、あえて第7小節3拍目の裏拍からポジションが改まるかのように見える表記とした。

なお、この曲の、第16小節2拍目から18小節の間の主旋律は、「D（レ）・G（ソ）・A（ラ）・H（シ）・A（ラ）・G（ソ）」であることを付け加えておく。

譜例28 「子もり歌」

旋律A

旋律B

譜例29 「スキーの歌」

譜例30 「冬げしき」

譜例30「冬げしき」においては、第10小節の途中でポジションの持ち替えを指定している。これは、第9小節から第12小節の間のフレーズ（音楽のまとまりを示す楽句）に使用されている音域が9度と比較的広いことからやむを得ないことと考える。しかしその中でも、初見時に、ピアノ実技初学者にも運指情報が一目でわかるよう配慮された、本稿34頁④の考えによるものである。

第6学年歌唱共通教材

譜例31 「越天楽今様」

譜例32 「おぼろ月夜」

譜例32「おぼろ月夜」においては、2段目と4段目のフレーズの途中でポジションの持ち替えを指定している。これは、使用されている音域が比較的広いことからやむを得ないことと考える。しかしその中でも、初見時に、ピアノ実技初学者にも運指情報が一目でわかるよう配慮された、本稿34頁④の考えによるものである。

譜例33 「ふるさと」

譜例33「ふるさと」においては、第11小節の途中でポジションの持ち替えを指定している。これは、第10小節から第13小節にかけてのフレーズに使用されている音域が、9度と比較的広いことからやむを得ないことと考える。しかしその中でも、初見時に、ピアノ実技初学者にも運指情報が一目でわかるよう配慮された、本稿34頁④の考えによるものである。

譜例34 「われは海の子」

譜例34「われは海の子」においては、複数の箇所においてポジションの持ち替えを指定している。これは、この曲の旋律部に使用されているフレーズ（音楽のまとまりを示す楽句）間の音域が、8度または9度にわたっており比較的広いことからやむを得ないことと考える。しかしその中でも、初見時に、ピアノ実技初学者にも運指情報が一目でわかるよう配慮された、本稿34頁④の考えによるものである。

以上のとおり、「①ピアノ実技初学者にとって一目でわかること。かつ活用が進むものであること。②ピアノ実技経験者にとっても有用であること。③将来的にこの方法によらない楽譜の演奏時にも有用であること。」⁶⁰⁾の三点に配慮し、小学校教員養成課程における、ピアノ演奏技術の上達を促進する運指指導方法に基づき、小学校歌唱共通教材全24曲の旋律部の運指案を譜例によって示した。

おわりに

本研究の意義は、小学校教員養成課程における、本稿が示す方法によるピアノ実技の運指指導実践例がこれまで認められていないことから、本運指指導方法が、小学校教員養成課程におけるピアノ演

奏技術の上達を促進する可能性を大いに含んでいる点にあると考える。

今後は、本研究の検討をより深めながら、本稿に示した運指案を用いて、小学校教員養成課程におけるピアノ実技指導実践へと進めていきたい。

註

- 1) 拙稿 2017 教員養成課程におけるピアノ実技指導理論の定義に関する研究 姫路大学教育学部紀要 第10号 109頁
- 2) 同上
- 3) 竹内アンナ 2006 小学校・幼稚園教員養成のためのピアノ指導法(1) 千葉敬愛短期大学紀要(28) 104頁
- 4) 同上 106頁
- 5) 村木洋子 2013 歌唱共通教材(小学音楽)旋律の運指について-ピアノ入門者のための- 山梨県立大学人間福祉学部紀要 第8号 54頁
- 6) 森正 2018 小学校の歌唱教材におけるピアノ伴奏の指づかいに関する考察 鳴門教育大学研究紀要 第33巻 394頁
- 7) 前掲5 52頁
- 8) 前掲5
- 9) 田中宏明 保育者及び教員養成系大学の学生に対するピアノを用いた指導-小学校音楽科歌唱教材の簡易伴奏譜活用のあり方- 北海道大学高等教育推進機構高等教育ジャーナル高等教育と生涯学習 第23巻 38頁
- 10) 同上
- 11) 渡会純一 2018 ピアノ演奏指導に関する考察と展望-「表現技術I(音楽)」履修学生への意識調査から- 東北福祉大学教職課程支援室教職研究 2017巻 96頁
- 12) 山本敬子・岩田朋子・奥野浩美・添田ゆみ・辻陽子・橋本由子・湊谷亜由美・山本麻代 2019 幼稚園教諭・保育士課程におけるピアノ初心者への指導の取り組み-読譜力の観点から見た実践報告- 武庫川女子大学学校教育センター年報 第4号
- 13) 前掲3 106頁
- 14) 前掲11 97頁
- 15) 松井奈都子・西島千尋 2018 小学校教員養成課程音楽科における弾き歌い指導の実践-指番号と楽譜の要素別理解を重視して- 日本福祉大学子ども発達学論集 第10号 144頁
- 16) 同上 145頁
- 17) 一戸智之・奈良拓哉 2017 Webを利用した歌唱教材ピアノ伴奏譜配信サービスの構築-初等音楽教育における実践的技能的教育的・効果的アプローチのための試行と錯誤- 東北女子大学東北女子短期大学紀要 第55号 22頁
- 18) 同上
- 19) 前掲5 52頁
- 20) 前掲5 52頁
- 21) 前掲5
- 22) 前掲5
- 23) 前掲5 52頁
- 24) 教育出版株式会社編集局 小学音楽 音楽のおくりもの 教師用指導書伴奏編 教育出版

- 25) 前掲5 52頁
- 26) 前掲5 52頁
- 27) 前掲5 53頁
- 28) 前掲5 53頁
- 29) 前掲5 53頁
- 30) 前掲5 53頁
- 31) 前掲5 53頁
- 32) 前掲5 53頁
- 33) 前掲5 53頁
- 34) 前掲5 54頁
- 35) 前掲5 54頁
- 36) 前掲5 54頁
- 37) 前掲9
- 38) 前掲9
- 39) 前掲9 39頁
- 40) 前掲9 42頁
- 41) 前掲9 42頁
- 42) 前掲9
- 43) 前掲9 39頁
- 44) 本稿 31-32頁
- 45) 本稿 32-33頁
- 46) 本稿 33頁
- 47) 前掲5 52頁
- 48) 前掲5 52頁
- 49) 前掲5 52頁
- 50) 前掲5 52頁
- 51) 前掲1 114頁
- 52) 前掲17 22頁
- 53) 本稿 31頁
- 54) 初等科音楽教育研究会 2011 最新初等科音楽教育法〔改訂版〕 小学校教員養成課程用 音楽之友社
- 55) 同上
- 56) 本稿 34頁
- 57) 本稿 34頁
- 58) 前掲54
- 59) 記譜上の略記法の一つ。石桁真礼生・丸田昭三・金光威和雄・末吉保雄・飯田隆・飯沼信義 1965 新装版楽典理論と実習 音楽之友社
- 60) 本稿 34頁